

2021 年度

九州共立大学

地域連携推進センター 報告書

令和 4 年 11 月

地域連携推進センター

地域連携推進センター 所長
山田 明

関係者の皆様方には、日頃より地域連携推進センターの活動に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、教育・学術・文化に関する施策を審議する文部科学省設置の中央教育審議会は、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年）という答申を出しました。これからの国及び自治体の行政施策に影響する重要度の高い答申です。その中で、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」が挙げられています。また、新たな社会教育の方向性として、「開かれ、つながる社会教育」の実現を求めています。

「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」は、教育、特に社会教育・生涯学習の未来に向けても喫緊の課題です。さらに、同答申では今後、より多様で複雑化する地域課題と向き合いながら一人一人がより豊かな人生を送ることが必要であり、持続可能な社会づくりを進めるためには自治体のみならず企業や大学、団体、個人など様々な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組むことが求められるとしています。

以上の時代的かつ社会的要請を受け、山積する地域課題を改善するためには、自治体をはじめ地域活動の中核を担っている多様な分野の組織、団体、地域住民の連携協働が必要不可欠です。すなわち、地域縦ぐるみで総合的に「つながり合う」ことが必要となるのです。そういった意味で、本学が推進する包括的地域連携協定に基づく地域連携事業プランは多様な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組みつつ、必要に応じて「つながり合う」ことで地域課題の解決に多大な貢献をしています。

ここに令和3年度九州共立大学地域連携推進センター報告書を発刊致します。報告書は包括的地域連携協定に基づく活動の成果を中心にまとめたものです。次年度以降も協定先との連携協働を通じて活動内容をより充実させ、「人づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」の構築を目指した活動を継続的に展開していきたいと考えています。

本学は地域と共に歩む大学の実現と学生の人材育成に重点を置き、学是である「自律処行（自らの良心に従い、事に処し善を行う）」の具現化を目指しています。この基本方針に沿って地域連携推進センターでは、社会のニーズに基づく先進的な地域連携システム（九共大モデル）を構築し、「地域の皆様と共に」をモットーに、オープンな存在としてその機能を提供して参ります。皆様方のご協力をお願い申し上げます。

地域連携推進センターについて

○目的

平成6年に設置した「生涯学習研究センター」は、地域における生涯学習社会の実現を図ることを目的とし、大学を地域社会に開放する際の触媒的な機能として、ここを拠点とした社会人や地域住民並びに学生に対する多様な学習の提供と、生涯学習に関する研究の推進を展開してきたところであるが、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては「地域連携・地域貢献」の拠点（中核）となるのがこれまで以上に強く求められており、大学全体で組織化された地域との連携協働体制の構築が喫緊の課題となっている。

このことから、本学においては上述の「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人材を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人材育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とする。

○業務内容

(1) 3部門が行う事業への助言・管理・運営補助

①地域連携部門

- ・協定締結機関及び協力機関との事業プランに関する調整及び学内機関とのマッチング
- ・地域連携事業プランに関する進捗状況の把握・管理
- ・個別の学生ボランティアに関する公募・指導・管理・派遣
- ・出前講義への教員派遣等の高大接続に関する事項
- ・その他、地域連携に関する事項

②生涯学習・資格取得支援部門

- ・公開講座・シンポジウム・有料講座等の企画立案
- ・学部教育と連携した国家資格、教員及び公務員採用試験対策に関する補助講座の企画、運営、実施
- ・その他、生涯学習・資格取得支援に関する事項

③研究推進部門

- ・自治体、企業、他大学等との地域連携に関する共同研究の受入窓口及び学内教員とのマッチング
- ・研究発表会等の企画立案・運営
- ・研究紀要の発行
- ・その他、地域連携に関する学内の研究推進に関する事項

(2) 「地域連携推進センター運営委員会」「地域連携協議会」「地域連携推進事業評価委員会」の運営・管理

(3) 協定締結の審議及び締結事務

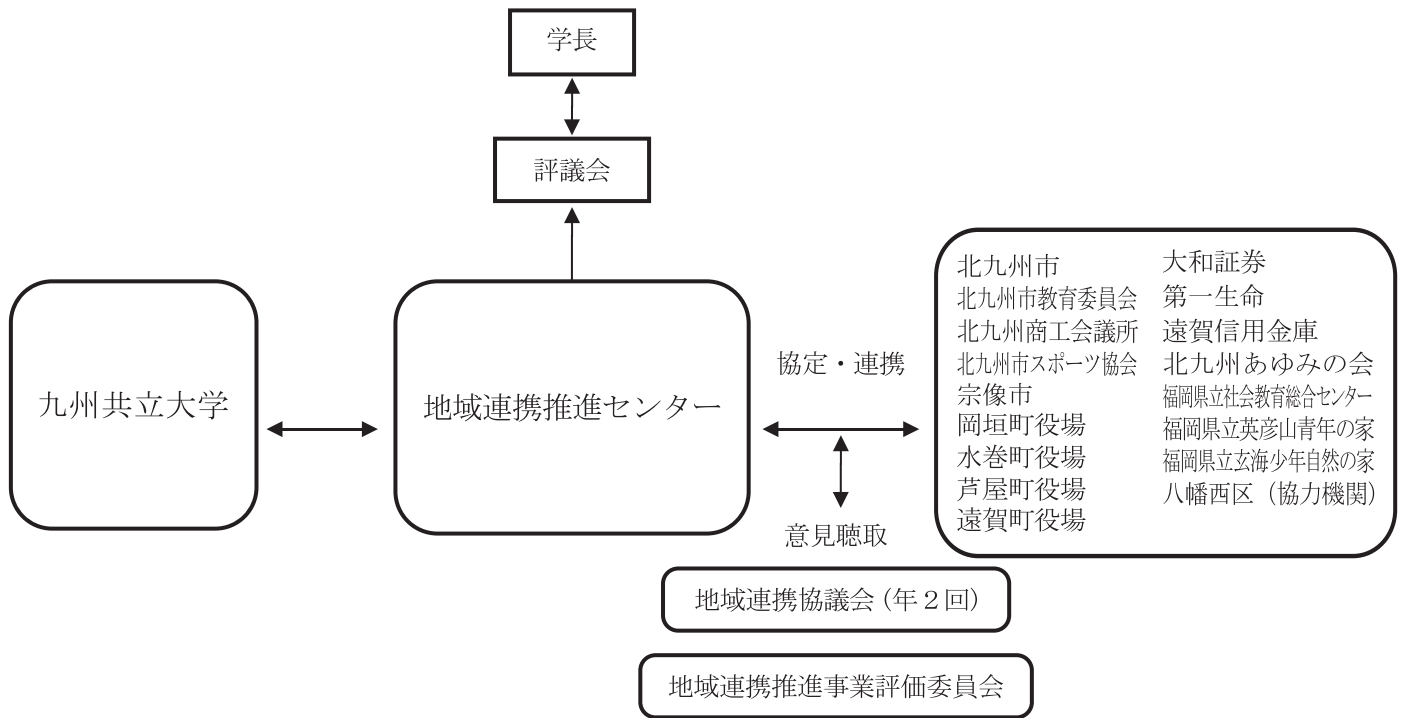
(4) 「地域貢献・連携事業」報告書（年報を含む）・紀要の発行

(5) その他、地域連携推進センターの運営に関する事項

○地域連携推進センター運営委員会

- 委員長：地域連携推進センター所長
副委員長：地域連携推進センター副所長 2名
委員：各学部から学長が推薦した教員 各1名
共通教育センターから学長が推薦した教員 1名
その他、学長が推薦した教員
キャリア支援課長
教務課長
事務局：地域連携推進センター職員
※所長・副所長の3名は、それぞれ3部門の部門長となる。

○組織図



目次

《 地域連携事業 》

【岡垣町】

- 岡垣町自治会加入推進プロジェクト … 1
- 岡垣町役場と連携した海老津駅前イルミネーション事業 … 2

【芦屋町】

- あしやハンズ・オン・キッズ（社会教育実習） … 3
- 芦屋学 … 4
- 芦屋町自治区活性化促進事業 … 7

【遠賀町】

- 遠賀学 … 10

【福岡県立社会教育総合センター】

- ゆずフェスティバル … 11
- 「体験の風をおこそう」運動推進事業「ファミリーキャンプ基礎講座」 … 13

【福岡県立玄海少年自然の家「玄海の家」】

- 玄海オープン・ディ … 14

【八幡西区】

- 折尾学Ⅱ … 16
- 堀川まちおこし事業実行委員会 コロナ禍で第20回堀川いっせい清掃 … 18

《 人材育成・共同研究事業 》

- 北九州ゆめみらいワーク 2021 … 20
- むなかた市民学習ネットワーク … 22
- 小学生のためのレベルアップ短期水泳教室 … 23
- 北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎研修 地域ふれあいコース … 24
- 健康運動指導士養成講習会【福岡会場】 … 25
- 健康運動実践指導者養成講習会【福岡会場】 … 26
- 知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」 … 27
- 福岡県警察サイバーパトロールモニター研修会 … 30
- 夏・冬休みの食料支援事業 「夏休み・冬休み お腹いっぱい大作戦」 … 32
- 北九州市「暴力通報・安全安心まちづくり」市民大会 … 33
- 大学生応援企画【コロナ禍でアルバイト収入減少の学生への食料品無料配布】 … 34
- 北九州市八幡西区学園大通り 折尾イルミネーション事業 … 35

《 生涯学習・資格取得支援 》

- 2021年度【前期・後期】公開講座実績報告 … 36

《令和3年度包括的連携協定を締結した自治体・団体》

- 宗像市 … 40
- 第一生命株式会社 … 41

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	岡垣町 自治会加入推進プロジェクト	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 岡垣町役場／地域づくり課
	責 任 者	《職・指名》 岡垣町役場担当職員
事業実施日・回数	令和3年4月～令和4年3月 《計5回》	
実施場所	九州共立大学	
事業対象者 参加人数	岡垣町役場・地域づくり課／九州共立大学スポーツ学部 参加者人数：15名	
経 費	あり（地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>岡垣町の地域課題の一つである自治会加入率の減少について、学生が若い世代の視点でその対策を提言するプロジェクトである。岡垣町役場の担当職員、岡垣町の自治会担当者（住民）、本学の学生による会議を通して、自治体加入率向上のための対策案をまとめ岡垣町役場に提出する。</p> <p>2. 実績</p> <p>①事前打ち合わせ（岡垣町役場の担当職員、山田） ②会議（岡垣町役場の担当職員、岡垣町の自治会担当者（住民、学生、山田 2回） ③提案する資料の作成（学生、山田 2回）</p> <p>3. 効果</p> <p>本学にあっては、知（地）の拠点としての社会貢献、学生にとっては、社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養を身に付けることができた。また、岡垣町にあっては、地域活性化・町づくりにおける社会貢献（地域貢献）等、以上について効果が見られた。</p>	
学生の声	・岡垣町自治会の方や職員の方との会議を通して、多様な地域課題を解決するためには、様々な課題があると感じた。また、会議の結果を基に対策案を作成するためには、まとめるスキルが必要であると感じた。	
今後の改善内容 及び展開	改善点（展開）は、以下の通りである。 ①地域課題に関する対策案の作成スキルの向上 ②プレゼンテーションスキルの向上	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	岡垣町役場と連携した海老津駅前イルミネーション事業	
九州共立大学	担 当 者	大和裕美子・黒田伸太郎
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》遠賀郡岡垣町役場
	責 任 者	《職・氏名》産業振興課 企業誘致・商工観光係 係長 末次浩之、主事 櫻木大輔
事業実施日・回数	令和3年5月～令和4年1月	
実施場所	九州共立大学・岡垣町内（フィールドワーク）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学経済学部 参加者人数：24名	
経 費	あり（特別教育研究費より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>本事業では、岡垣町役場との連携により海老津駅前の賑わい創出を目的としたイルミネーションによる地域資源の表現に取り組んだ。</p> <p>1年生19名は、2班に分かれて岡垣町の地域資源を学び、実際に町を訪問して調査を行った。調査結果をもとに、岡垣町らしいイルミネーションデザインを検討し、町内の行政関係者らとの意見交換も行った。その後、完成したデザイン案を岡垣町長に報告し、イルミネーションの作成、取付まで滞りなく実施した。</p> <p>2年生5名は、昨年度実習を経験した学生で、当該経験を活かして1年生へ適切な指導・助言を行うなど、活発な活動を行った。</p> <p>2. 実績</p> <p>1年生は、岡垣町での調査をもとにイルミネーションの作成、取付、点灯を行い、地域資源の表現について学んだ。なお、今年度は町広報誌や地元のマスコミ（西日本新聞、FBS）に実習が紹介され、本学の地域創造実習について、広く県民に周知することができた。</p> <p>3. 効果</p> <p>岡垣町の地域資源というテーマのもと、学生は実際に現地へ足を運び、地域の歴史や文化も学ぶことで、地域に対する意識が変わった。また、イルミネーションを作成することで、自らの実践が目に見える形となし、学びの効果も高まった。実習では頻りに町職員との交流があったため、大学と町との双方向のコミュニケーションが生まれ、結果として、双方がWinWinの関係（大学：学生の地域での学び、町：地域課題の解決）を構築することにつながった。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に参加する前は岡垣町の事をほとんど知らなかったが、実習によって町の色々な事を知り、町への愛着が生まれた。 ・役場の方と話す機会があり、行政に対するイメージが変わった。 ・地域社会の課題が沢山あり、学生として関わることの大切さを学んだ。 	
今後の改善内容 及び展開	<p>コロナ禍での実習であったため、住民の方との意見交換ができなかったり、実習先も限定的となったことで、想定した成果には到達できなかった。今後は、コロナ禍でも活動可能な実習内容への改善を行い、学生および町の満足度をより高めていく。</p>	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	あしやハンズ・オン・キッズ（社会教育実習）	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》芦屋町役場（教育委員会）
	責 任 者	《職・指名》生涯学習課担当職員
事業実施日・回数	令和3年4月～令和4年1月	
実施場所	芦屋町	
事業対象者 参加人数	「あしやハンズ・オン・キッズ」に参加した児童 参加人数：経済学部1名（社会教育主事任用資格取得希望者）	
経 費	あり（地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>社会教育主事任用資格の取得を希望する学生が、社会教育実習として芦屋町主催の青少年交流事業「あしやハウス・オン・キッズ」に参加し、このプログラムのサポートを通して心構えやスキルを実践的に学ぶことを目的とする。</p> <p>2. 実績</p> <p>①事前研修で、子どもの社会教育（自然体験・生活体験・社会体験）活動をサポートする心構えとスキルを学び、社会教育主事（社会教育士）を目指す使命と役割を確認した。 ②芦屋町教育委員会の担当者と密に打ち合わせをして社会教育実習を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>①活動を通じて、社会教育の対象者である子どもの理解ができるようになった。 ②社会教育実習を通して、体験活動のサポートができるようになった。</p>	
学生の声	・子どもの自然体験・生活体験や活動をサポートする心構えや社会教育主事としての使命と役割を実習を通して学んだ。	
今後の改善内容及び展開	改善点（展開）は、以下の通りである。 ①こども対象の社会教育（自然・生活・社会体験活動）をサポートするスキル ②子どもとのコミュニケーション	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	芦屋学	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 芦屋町役場
	責 任 者	《職・氏名》 企画調整課（地域創生推進係）
事業実施日・回数		
実施場所	九州共立大学／フィールドワーク（芦屋町）	
事業対象者 参加人数	芦屋町役場 参加者人数：スポーツ学部 15名	
経 費	あり（特別教育研究費より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>芦屋町の魅力を再発見し、地域活性化の貢献を果たすべく学生が若い世代の視点で町の魅力を掘り起こす地域学のプロジェクトである。芦屋町から提供された各種資料を整理し、フィールドワークにも出かけ成果物として冊子を完成させた。完成した芦屋学の冊子とPDFデータを芦屋町役場に提供し、町民の地域活性化の活動に活用してもらう計画となっている。</p> <p>2. 実績</p> <p>①芦屋町提供の各種資料を使用した学習会（事前学習）の実施 ②芦屋町でのフィールドワーク、編集委員会の開催 ③記事の作成、編集、校正</p> <p>3. 効果</p> <p>本学にあっては、知（地）の拠点としての社会貢献、学生にとっては、社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養、芦屋町にあっては、地域活性化・町づくりにおける社会貢献（地域貢献）等、以上について効果が見られた。</p>	
学生の声	地域学の構築という取り組みを通して、町の魅力を問い直し、再発見することが地域住民の生涯学習や地域活性化に貢献することにつながると感じた。	
今後の改善内容 及び展開	改善点（展開）は、以下の通りである。 ①文献調査だけでなく、地域住民へのインタビューを実施する。 ②フィールドワークを充実させる。	

報道機関各位

令和4年3月23日

芦屋町 企画政策課

芦屋町・九州共立大学連携事業 「芦屋学」冊子贈呈式を開催しました！

1 経緯

芦屋町は、学校法人福原学園九州共立大学と、お互いのもつ資源や知識、ノウハウなどを効果的かつ効率的に連携できるよう、平成30年8月31日に「包括的地域連携に関する協定」を締結しております。

今回、本協定に基づく連携事業の一環として、「芦屋学」という冊子を作成いたしました。この度、「芦屋学」の冊子完成に伴い九州共立大学から当町に100冊分お贈りいただけるとのこと、3月17日（木）に贈呈式を実施いたしました。

2 「芦屋学」とは

芦屋学は、芦屋町からの情報提供をもとに、九州共立大学の学生が芦屋町の歴史をはじめ、地域の情報を整理し、冊子として再編集したものです。主に、町民の方が、町の歴史をはじめ地域に関わる情報を学ぶことができるテキストとして編集されています。



写真1.「芦屋学」冊子

3 贈呈式

(1) 日 時

令和4年3月17日(木) 15時00分～15時30分

(2) 場 所

芦屋町役場 3階 31 会議室 (福岡県遠賀郡芦屋町幸町 2 番 20 号)

(3) 出席者

【芦屋町】

- 町 長 波多野 茂丸
- 教育長 三桝 賢二

【九州共立大学】

- 地域連携推進センター所長 山田 明
- スポーツ学部スポーツ学科学生3年 岡田 紗知
- スポーツ学部スポーツ学科学生3年 前田 穂香

(4) 式の様子



写真2.記念撮影



写真3.「芦屋学」冊子贈呈の様子

※左から、スポーツ学部スポーツ学科学生2名、地域連携推進センター所長、芦屋町長、芦屋町教育長

4 その他

(1) 贈呈いただいた「芦屋学」冊子について

今回、九州共立大学より寄贈いただいた100冊の「芦屋学」については、町民の方や町内の小中学生に手に取っていただけるように、町の図書館や公民館などの各施設や、小学校・中学校などに配架いたします。

(2) 芦屋町と九州共立大学が実施している連携事業(令和3年度)

- ①体育科「水泳」学習における児童の泳力向上事業
- ②あしやハンズ・オン・キッズ(町が主催する青少年体験活動事業)における社会教育実習生受入事業
- ③自治区活性化促進事業(野良猫対策、空き家対策)

5 事務局(問い合わせ先)

【芦屋町】

企画政策課 地方創生推進係 担当:山崎、谷岡

電話:093-223-3571

九州共立大学 地域貢献・地域連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	芦屋町自治区活性化促進事業	
九州共立大学	担 当 者	田代 利恵
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 芦屋町役場
	責 任 者	《職・氏名》 芦屋町役場 環境住宅課 課長 小田武文
事業実施日・回数	令和4年2月14日 《計1回》（現地視察日）	
実施場所	芦屋町役場、猫の保護活動施設	
事業対象者 参加人数	芦屋町役場職員／猫の保護活動をしている住民／九州共立大学スポーツ学部 参加者人数：8名	
経 費	なし	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>事業目的：芦屋町における野良猫の数を減らすための対応策を考える。 学生によるアイデアを提案し、芦屋町の取り組みに活用する。</p> <p>内容</p> <p>①芦屋町の職員より、野良猫による地域での問題やTNR活動などの取り組みについて説明を受けた。</p> <p>②野良猫を保護する活動をしている場所（保護猫ルーム）に行き、活動されている方の話を聞き、実際に保護した猫を観察した。</p> <p>③学生の視点でアイデアを出し合った。</p> <p>2. 実績</p> <p>①芦屋町役場に対して、学生からアイデアの提案を行った。</p> <p>②芦屋町で実現可能性等について今後検討することになった。</p> <p>3. 効果</p> <p>①学生にとっては実際の活動を観て話を聞くことで、自治体や地域の問題を身近に感じることができ、多くの学びがあった。</p> <p>②今後の活動の中で学生の提案をブラッシュアップしながら進めていくため、すぐに効果につなげることは難しい。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって野良猫の問題が異なることがわかった。 ・実際に活動されている方の話を聞くことで、リアルな現実を知り、猫問題の深刻さがわかった。 ・身近な問題でありながら、深く考えたことがなかったのでとても勉強になった。 	
今後の改善内容及び展開	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋町が検討をおこない、今後の展開を決める。 	



芦屋町役場 芦屋町の職員から地域猫に関する説明を受ける



野良猫の保護施設内の視察



施設内での説明（左：芦屋町佐竹係長、右：今仁さん）

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	遠賀学	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 遠賀町役場
	責 任 者	《職・氏名》 総務課
事業実施日・回数	令和3年4月～令和4年1月 《計10回》	
実施場所	九州共立大学／フィールドワーク（遠賀町）	
事業対象者 参加人数	遠賀町役場 参加者人数：経済学部1名 スポーツ学部15名 合計16名	
経 費	あり（特別教育研究費より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>遠賀町の魅力を再発見し、地域活性化の貢献を果たすべく学生が、若い世代の視点で町の魅力を掘り起こす地域学のプロジェクトである。遠賀町から提供された各種資料を整理し、フィールドワークにも出かけ成果物として冊子を完成させた。完成した遠賀学の冊子とPDFデータを遠賀町役場に提供し、町民の地域活性化の活動に活用してもらおう計画となっている。</p> <p>2. 実績</p> <p>①遠賀町提供の各種資料を使用した学習会の実施 ②遠賀町でのフィールドワーク、編集委員会の開催 ③記事の作成、編集、校正</p> <p>3. 効果</p> <p>本学にあっては、知（地）の拠点としての社会貢献、学生にとっては、社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養、遠賀町にあっては、地域活性化・町づくりにおける社会貢献（地域貢献）等、以上について効果が見られた。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学という取り組みが、社会貢献となることに気づいた。 ・作成した冊子を、地域住民が生涯学習のテキストにしたり、小中学生が授業で郷土学習に活用してほしい。 	
今後の改善内容 及び展開	<p>改善点（展開）は、以下の通りである。</p> <p>①文献調査だけでなく、地域住民へのインタビューを実施する。 ②フィールドワークを充実させる。</p>	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	ゆずフェスティバル	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県立社会教育総合センター
	責 任 者	《職・指名》サポート室長
事業実施日・回数	令和3年11月7日 《計1回》	
実施場所	福岡県立社会教育総合センター	
事業対象者 参加人数	ゆずフェスティバルの参加者（児童・保護者）／九州共立大学経済学部・スポーツ学部 参加者人数：30名	
経 費	あり（地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターが主催する青少年育成事業であるゆずフェスティバルにおいて、子どもの自然体験・生活体験・社会体験をサポートする。</p> <p>2. 実績</p> <p>①事前研修で、子どもの自然体験・生活体験・社会体験の活動をサポートする心構えを学び、プレイリーダーとしての使命と役割を確認した。 ②福岡県立社会教育総合センター担当者と打ち合わせをしてボランティアを行った。 ③ボランティア学生は、担当部署で社会人ボランティアとも協働して役割を果たした。</p> <p>3. 効果</p> <p>①活動を通じて、ボランティアの対象者である子どもの理解ができるようになった。 ②各自の担当部署で、各種体験活動のサポートができるようになった。 ③福岡県立社会教育総合センターの職員から感謝され、自己肯定感が高まった。</p>	
学生の声	<p>・子どもの体験活動をサポートするためには、スキルはもちろんのこと、子どもとのコミュニケーションが必要だということを理解することができた。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>改善点（展開）は、以下の通りである。</p> <p>①子どもの体験活動をサポートするスキルの向上 ②子どもとのコミュニケーション能力の向上</p>	

ゆずフェスティバル



福岡県立社会教育総合センター前での集合写真



子どもたちの体験活動をサポートする様子

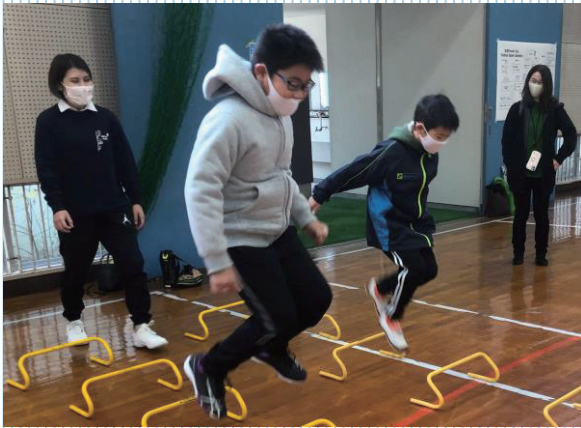
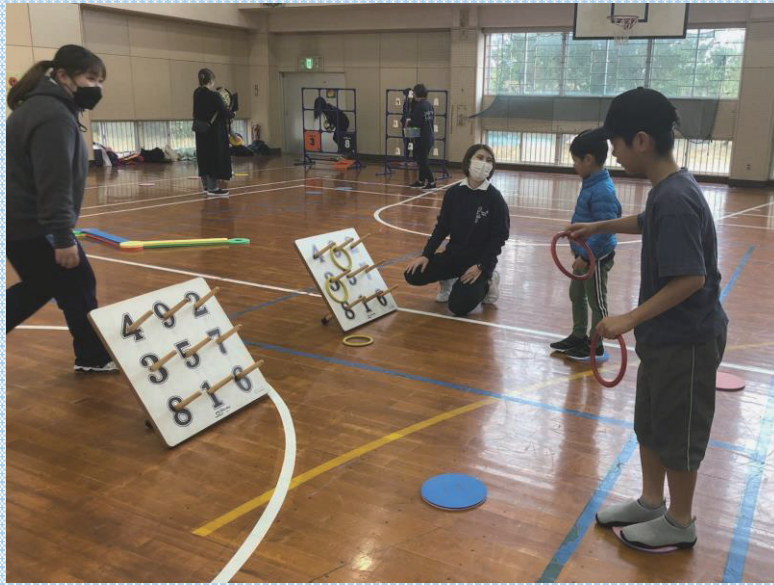
九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	「体験の風をおこそう」運動推進事業「ファミリーキャンプ基礎講座」	
九州共立大学	担 当 者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県立社会教育総合センター 学習サポート室
	責 任 者	《職・氏名》福岡県立社会教育総合センター 学習サポート室 松井室長
事業実施日・回数	令和3年6月20日 ・ 令和3年11月20日～21日（1泊2日） 《計2回》	
実施場所	福岡県立社会教育総合センター グラウンド	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部 1名（大学院生） 参加者人数：10家族	
経 費	あり（福岡県職員研修所の基準により謝金）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>キャンプ初心者である県内の高校生以下の青少年とその家族10組程度を対象に、キャンプの基礎的なスキルとマナーを学ぶプログラムを提供し、自然体験の意義や公共のマナー、自然環境の大切さを学びながらキャンプを楽しむ機会となった。</p> <p>2. 実績</p> <p><第1回>キャンプ基礎知識・マナー講座、テント設営、野外炊飯 等 <第2回>チャレンジ！ファミリーキャンプ！（テント泊）、野外炊飯 等</p> <p>3. 効果</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況をみながらの開催となったが、とても人気の事業でキャンプブームもあり、あっという間に応募多数となった。キャンプ人気の中で、基礎的なスキルとマナーを学んでもらうことにより、安全にキャンプを行えるようプログラムを提供し、実際に体験してもらった。具体的には、テント設営法や野外調理法を行い、家族で協力しながら楽しく参加して頂いた。</p> <p>今後も社会教育総合センターとの連携が促進され、学びを通じた青少年の生きる力の育成に貢献していきたい。サポートしてくれた学生は、火を起こしたり大活躍だった。今年度更にも上の資格キャンプディレクター2級資格に挑戦して、みごと合格した。</p>	
学生の声	初めてのファミリーキャンプでテントの張り方から試行錯誤を繰り返している子どもたちの楽しそうな姿が見られたことが教えている自分としてはとても嬉しかったです。また、家族でやるからこそその子どもたちが安心して自然を思いきって楽しむことが出来ていたのではないかと思います。これをきっかけにたくさんファミリーキャンプに行ってくれたらいいなと思いました。そのためにもキャンプレクチャー頑張ります！	
今後の改善内容及び展開	<p>キャンプインストラクター資格取得で学んだことを実際に教える経験はとても学生にとって貴重な機会である。</p> <p>今後も、社会教育総合センターとの連携を深めながら、福岡県の青少年の育成に貢献したい。</p>	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	玄海オープン・ディ	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県立玄海少年自然の家「玄海の家」
	責 任 者	《職・指名》主任社会教育主事
事業実施日・回数	令和3年11月23日《計1回》	
実施場所	福岡県立玄海少年自然の家「玄海の家」	
事業対象者 参加人数	「玄海オープン・ディ」に参加した児童 参加者人数：経済学部5名 スポーツ学部12名 九州女子大学10名 合計27名	
経 費	あり（福岡県立玄海少年自然の家「玄海の家」・地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>福岡県立玄海少年自然の家が主催する青少年育成事業である玄海オープン・ディにおいて、子どもの自然体験・生活体験・社会体験をサポートした。</p> <p>2. 実績</p> <p>①事前研修で、子どもの自然体験・生活体験・社会体験の活動をサポートする心構えを学び、プレイリーダーとしての使命と役割を確認した。 ②福岡県立玄海少年自然の家の担当者との打ち合わせをしてボランティアを行った。 ③ボランティア学生は、担当部署で他校の学生ボランティアとも協働して責任を果たした。</p> <p>3. 効果</p> <p>①活動を通じて、ボランティアの対象者である子どもの理解ができるようになった。 ②各自の担当部署で、体験活動のサポートができるようになった。 ③福岡県立玄海少年自然御家の職員から感謝され、自己肯定感が高まった。</p>	
学生の声	子どもの自然体験・生活体験や活動をサポートする心構えやプレイリーダーとしての使命と役割をボランティア活動を通して学んだ。またサポートを通して児童に対応することの難しさ（言葉かけなど）も感じる事ができた。	
今後の改善内容及び展開	改善点（展開）は、以下の通りである。 ①こどもの自然体験・生活体験・社会体験の活動をサポートするスキル ②子どもとのコミュニケーション能力の向上	

玄海オープン・デイ



プレイリーダーとして
ボランティア活動をする様子

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	折尾学Ⅱ	
九州共立大学	担 当 者	山田 明・尾上 百合加
	所 属	スポーツ学部・経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 北九州市八幡西区役所・折尾商連
	責 任 者	《職・氏名》
事業実施日・回数	令和3年4月～令和4年3月 《計5回》	
実施場所	九州共立大学／インタビュー（折尾）	
事業対象者 参加人数	折尾住民・北九州市八幡西区役所 参加者人数：経済学部 36名	
経 費	あり（地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>折尾の魅力を見直し、地域活性化の貢献を果たすべく学生が若い世代の視点で町の魅力を掘り起こす地域学のプロジェクトである。今回は、昨年度の折尾学Ⅰの続巻として、折尾で活躍している方にインタビューを行い、冊子を完成させた。完成した折尾学Ⅱの冊子とPDFデータを北九州市八幡西区役所及び折尾商連に提供し、住民の地域活性化の活動に活用してもらう。</p> <p>2. 実績</p> <p>①事前学習 ②インタビュー ③記事の作成、編集、校正</p> <p>3. 効果</p> <p>本学にあっては、知（地）の拠点としての社会貢献、学生にとっては、社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養、折尾地域にあっては、地域活性化・町づくりにおける社会貢献（地域貢献）等、以上について効果が見られた。</p>	
学生の声	折尾地域の現状やその課題を知ることで、様々な団体がいかにこのまちのことを真剣に考えて行動しているのかを知ることができ、いい機会になりました。	
今後の改善内容 及び展開	3ヵ年計画で折尾地域の「過去」「現在」「未来」を様々な角度・観点から総合的にまとめ、地元学としての「折尾学」を構築していく。来年度（令和4）は、最終章「未来」について、これからの折尾地区について学生目線で発信していく。	



アイデアを話し合う様子



折尾商連との打ち合わせ



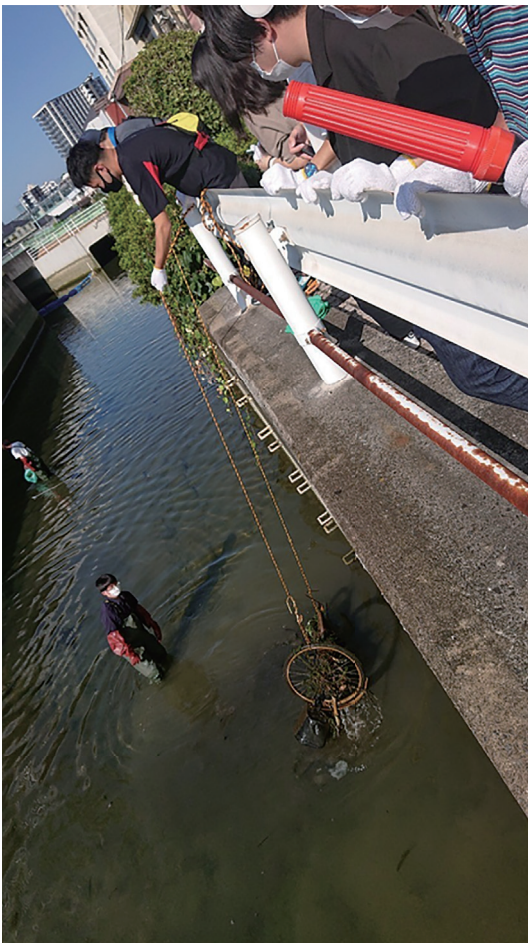
アイデアを話し合う様子

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	堀川まちおこし事業実行委員会 コロナ禍で第20回堀川いっせい清掃	
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部長)、尾上 百合加(ちょボラ部副部長)
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州市八幡西区役所総務企画課、協同組合折尾商連
	責 任 者	《職・氏名》折尾商連 事務局長 桑原正樹氏
事業実施日・回数	令和3年10月3日 《計1回》	
実施場所	八幡西区折尾地区 [折尾高校～光明、洞海湾干潟] 八幡西区楠橋地区 [笹尾川周辺]	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部 10名(ちょボラ部長・引率者甘を含む) 事業対象者：堀川周辺の高校、大学、JR職員、役所、警察署、折尾商連、地元住民 参加者人数：199名	
経 費	なし	
事業目的・内容及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>堀川まちおこし事業実行委員会(事務局：八幡西区役所)が、地域を流れる川「堀川」をきれいにしようと、「堀川まちおこし事業」の一環として実施している「コロナ禍で第20回堀川いっせい清掃」に本学ちょボラ部が10名(部長・甘含む)参加。</p> <p>2. 実績</p> <p>参加団体はA班～G班に分かれ、ちょボラ部は自由ヶ丘高等学校と組んで「A班」として堀川の清掃を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>このイベントは本学学生にとって、自らが日頃世話になっているまちをきれいにすることだけでなく、地域の皆さんとかわることができる貴重な機会でもある。本年度も熱心に清掃をし、有志の方々と協力して沢山のゴミを拾い、楽しくたいへん有意義な時間を過ごすことができた。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・川底から自転車の粗大ごみを引き上げるのは大変だったけど、楽しかった。 ・来年度もぜひ参加し、地域社会に貢献できる共立大生に成長していきたい。 	
今後の改善内容 及び展開	今年度はコロナ禍の影響もあり、ちょボラ部からの参加希望者が多かったが、参加者が全体で200名以内(1グループ10名まで)に限定されたため、参加できなかった部員も多数いた。来年度は、もっとたくさんの参加者とともにこの折尾地域の環境美化運動を盛り上げたい。	



川の中に入り、ごみを拾う・引き上げる部員の様子



自転車の発見、引き揚げの様子。毎年のように自転車が見つかるという(地元住民)

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	北九州ゆめみらいワーク2021	
九州共立大学	担 当 者	大川内夏樹、金子研太、木村栞太、木村美奈子、黒田伸太郎、正田淳一
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州市産業経済局雇用政策課
	責 任 者	《職・氏名》
事業実施日・回数	令和3年12月3日 《計1回》	
実施場所	西日本総合展示場 新館	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：経済学部 6 名 参加者人数：北九州市内の中学生・高校生約250名	
経 費	あ り（入試広報課より支出）	
事業目的・内容及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>「北九州ゆめみらいワーク」は、北九州市内の企業や学校等がブースを出展し、市内の中学生・高校生を対象に、働くことや学ぶことの大切さを伝え、進路選択に役立つ情報を提供する催しである。経済学部では「ゲーム理論」に関するゼミ体験ができるブースを出展し、本学の学生・教員と交流しながら、経済学部の魅力や学びの在り様について理解してもらい取り組みを行った。また、特に本学経済学部に関心のある来場者に対しては、大学パンフレットを用いて詳しい大学紹介を行った。</p> <p>2. 実績</p> <p>事前準備：担当教員で事前打ち合わせを数回行い、出展直前には、学生アシスタントに対して説明会を行った。</p> <p>当日の活動：本学経済学部のブースへの来場者約250名に対し、「ゲーム理論」に関するゼミ体験に参加してもらった。</p> <p>3. 効果</p> <p>経済学部における学びの一端を伝えることができた。経済学部の学生との交流を通じて、来場者の本学に対する関心を高めることができた。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は接することの少ない中学生や高校生と関わることで、コミュニケーション力を向上させることができた。 ・教育実習に向けて、よい練習の機会になった。 	
今後の改善内容及び展開	<p>予算の関係等により、学生アシスタントの人数に限られてしまったため、来場者の人数に対して、やや人員不足の感があった。来場者の人数は年々増加の傾向にあるため、来年度以降は、アシスタントを増員し、来場者への丁寧かつ十分な対応を行いたい。</p>	



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	むなかた市民学習ネットワーク	
九州共立大学	担 当 者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》宗像市役所
	責 任 者	《職・氏名》コミュニティ協働推進課 係長
事業実施日・回数	令和3年4月～令和4年年3月 《計5回》	
実施場所	メイトム宗像（宗像市役所関連施設）	
事業対象者 参加人数	宗像市役所・むなかた市民学習ネットワーク 参加者人数：経済学部2名 スポーツ学部7名 合計9名	
経 費	あり（宗像市役所・地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>①目的 学生ボランティア（人材育成） 自治体・市民活動団体との地域連携による地域貢献</p> <p>②内容 全国でも著名な生涯学習システムである「むなかた市民学習ネットワーク」について、課題（新規受講生募集、活動成果の効果的広報）解決に向けて学生の視点から新たな提案を行う。また宗像市及びむなかた市民学習ネットワークとの連携協働を通して、提案した内容を試行的に実施する。</p> <p>2. 実績</p> <p>①PR事業の研究（提案） ②PR事業の実施</p> <p>3. 効果 本学にあっては、知（地）の拠点としての社会貢献、学生にとっては、社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養、宗像市にあっては、地域活性化における社会貢献（地域貢献）等、以上について効果が見られた。</p>	
学生の声	市役所職員やむなかた市民学習ネットワーク担当者との連携協働を通して、自治体が抱えている地域課題について直接に接することで、大学での学び（生涯学習・社会教育）とリンクさせ学びが深まっているという意見が多かった。	
今後の改善内容 及び展開	地域課題は困難性を伴っている。その地域課題の解決をサポートするボランティアは、準備を十分にしなければ対応できない。責任も大きいものがある。次年度は、さらに期待に応えられるように万全な事前準備をしたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	小学生のためのレベルアップ短期水泳教室	
九州共立大学	担 当 者	森 誠護、重枝 武司
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》九州共立大学近隣に在住の住民
	責 任 者	《職・氏名》
事業実施日・回数	令和4年3月28日（月）・29日（火）・30日（水）《計3回》	
実施場所	福原学園屋内公認プール（25m×6コース、水深1.35m）	
事業対象者 参加人数	九州共立大学近隣に在住の小学1年生～6年生 17名（申込者17名、うち2名欠席）	
経 費	あり（地域連携推進センターより支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>令和2年度における学校の水泳授業について文部科学省は、「児童生徒の健康と安全を第一に考えて、地域の感染状況を踏まえ、密集・密接の場面を避けるなど、下記の事項を十分に踏まえた対策を講じることを前提として、水泳の授業を実施することは差し支えない」と通知していたものの、令和2年度は多くの学校で水泳授業が中止されており、十分な水泳教育が行えていないのが現状である。そこで本事業では、水泳の普及を目的とした水泳教室を実施することで、本学近隣に住む小学生の泳力向上の一助とすることを目的とする。</p> <p>2. 実績</p> <p>本来予定していた時期（夏季）には、新型コロナウイルスの影響で実施ができなかったが、新学年を迎える前の時期（春季）に実施することができた。対象者は初心者から中級者の小学生を対象としており、6コースに分けて実施した。基本的な水中運動やクロール・平泳ぎ・背泳ぎの技術習得などを主に実施した。</p> <p>3. 効果</p> <p>近隣の小学校では、コロナ禍において学校の授業で水泳が行われていない現状があるため、短期間の事業であったが、受講前に比べて泳力を向上することができていた。</p>	
学生の声	水泳教室終了後には、参加者ならびに保護者にアンケートを回答して頂いたが、「楽しかった」「次年度も開催してほしい」「3日間では短いので、もっと実施してほしい」などといった好意的な意見が得られた。	
今後の改善内容 及び展開	改善点（展開）は、以下の通りである。 今後もこのような水泳普及のための地域連携事業を継続したい。また、期間や開催時期については今後検討を進めていきたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎研修 地域ふれあいコース	
九州共立大学	担 当 者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》北九州シニアネットワークアカデミー穴生学舎事務課
	責 任 者	《職・氏名》北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 所長 藤澤 隆文
事業実施日・回数	令和3年5月6日 《計1回》	
実施場所	北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 2階第2研修室	
事業対象者 参加人数	北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎研修 地域ふれあいコース 高齢者24名	
経 費	あり（北九州市職員研修所の基準により謝金）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>北九州市では、高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進を目的に年長者研修大学校を設置し、各種講座を実施している。</p> <p>2. 実績</p> <p>地域ふれあいコースの24名に対し、講義のテーマの『初めまして』仲間づくり～学びの環境づくり～を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>はじめての場所に参加するとき「どんな人が来てるのかな」「ついて行けるかな」などドキドキする。そんなドキドキをあっという間に解消できるような仲間作りの手法を体験してみることを目的に、『自分が自分らしく表現できる』そんな環境づくり、仲間づくりを行った。コロナ禍ではあるが三密を回避しながらとても和やかな雰囲気の中、実施でき、学びを通じた北九州年長者の健康づくり・生きがいづくりに貢献できた。地元北九州市の年長者大学校穴生学舎との連携が促進された。さらに、本学の地域貢献に努めたい。</p>	
学生の声	コロナ感染症予防の観点より、講師1人での参加となった。	
今後の改善内容 及び展開	今後も、北九州市年長者大学校穴生学舎との連携を深めながら、北九州市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	健康運動指導士養成講習会【福岡会場】	
九州共立大学	担 当 者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責 任 者	《職・氏名》 事業部 浅海 清
事業実施日・回数	令和3年7月15日 《計1回》	
実施場所	TKPガーデンシティ天神	
事業対象者 参加人数	健康運動指導士養成講習会受講者（健康運動指導士志望者） 参加者人数：講習会受講者（健康運動指導士志望者）16名	
経 費	あり（事業財団より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>健康・体力づくり事業財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動指導士」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。</p> <p>この度、養成講習会の講師として依頼を受け、養成講習会テキスト第15章の「栄養・食事アセスメント（低栄養対策含む）」の講習（講義）を90分間受け持った。</p> <p>2. 実績</p> <p>参加者は42名と昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で少数であったが、パワーポイントと板書を併用したため興味を引けたと思われる。</p> <p>3. 効果</p> <p>福岡会場ということで、今後健康運動指導士となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。試験対策の意味が強い講習会であるが、高齢化率の高い福岡ならではの内容を入れることで、地域の健康を下支えする基盤が作れていると考える。</p>	
学生の声	学生の参画はなし。	
今後の改善内容及び展開	資格取得後、更新を行わない者も多いと思われるので、廉価な健康運動指導士単位認定講習を計画していく必要がある。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	健康運動実践指導者養成講習会【福岡会場】	
九州共立大学	担 当 者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》 公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責 任 者	《職・氏名》 指導者養成部 草刈 有
事業実施日・回数	令和4年3月9日 《計1回》	
実施場所	アクション福岡	
事業対象者 参加人数	健康運動実践指導者講習会受講者（健康運動実践指導者志望者） 参加者人数：55名	
経 費	あり（事業財団より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>健康・体力づくり事業財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動実践指導者」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。</p> <p>この度、養成講習会の講師として依頼を受け、養成講習会テキスト第8章の「ウォーキングとジョギング」の講習（実習）を180分間受け持った。</p> <p>2. 実績</p> <p>参加者55名。前半の講義部分は、パワーポイント映写、配布、板書を用いたため興味を引けたと思われる。実習は「きれいに歩く」ことを基本とした。なんらかの競技を行っていた人はバランスが悪いこともある旨を説いた。</p> <p>3. 効果</p> <p>福岡会場ということで、今後健康運動実践指導者となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。今年度はかなりの数「よかった」という意見をいただいた。本学の卒業生も1名受講しており、九州共立大学の人材育成を通じた地域への還元をアピールできたと思われる。</p>	
学生の声	学生の参画はなし。	
今後の改善内容及び展開	質問はランニングレベルのものが多かった。健康づくりのためのジョギング・ウォーキングだけでなく、ランニング指導者育成も必要と思われる。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」	
九州共立大学	担 当 者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》ニコニコ体操教室 保護者会
	責 任 者	《職・氏名》保護者会会長 桑野 暁子
事業実施日・回数	令和3年5月26日～令和4年2月26日 第2・第4土曜日開催 月2回《計7回》	
実施場所	九州共立大学 第2体育館 ダンスレッスン室	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 学生：スポーツ学部 15名 九州女子大学学生：30名 計45名 参加者人数：子ども40名（きょうだい児含む）	
経 費	あり（保護者会より支出）	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>知的障がい児及び発達障がい児を対象とし、大学の施設及び知的財産を活用して実施している体操教室。この教室は大学生が、障がいを抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。年に1回1泊2日のキャンプを計画。</p> <p>2. 実績（今年度はデイキャンプを実施）</p> <p>月2回（土曜日）の体操教室を午前中（10：00～12：00）実施した。 11月：到津の森及び芦屋町青少年野外訓練場にてデイキャンプを企画・運営した。 2月：子どもたちとのバス遠足を企画したが、蔓延防止法発令のため中止とした。</p> <p>3. 効果</p> <p>子どもたちは、毎回の体操教室をととても楽しみにしてくれている。学生たちがマンツーマンで子どもたちをサポートすることで、子どもたちはスポーツ活動を楽しむことができる。また、学生たちにとっても発達障がい児に対するスポーツ支援活動をとおして、教員としての資質を深めるだけでなく、主体的に行動できる力を身に付けている。今年度もアダプテッドスポーツ研究部から教員採用試験に臨んだ学生たち全員合格した（小学校6名）。これから、多様な子どもたちのことを理解してあげられる先生として即戦力で活躍してくれることと思う。</p>	
学生の声	指導案を作成し、事前に活動で使用する教材づくりを行ったり、どのような支援や工夫が大切なのかをみんなで考えたりすることで、事前準備の大切さやこれまで気付かなかったことに気付くことができました。子どもたちと毎回関わることがとても楽しみでした。	
今後の改善内容 及び展開	学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、北九州市の特別支援学校等と連携を深めながら、北九州市の障がい児の余暇支援としてスポーツをとおして、生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。	

《令和3年度ニコニコ体操教室主催：ニコニコデイキャンプ》



受付（手指の消毒/検温）



いよいよ出発



みんなが『楽しめる』を目的に行っています(^_^)



いっぱい遊びました



おやつは『焼マシュマロ』

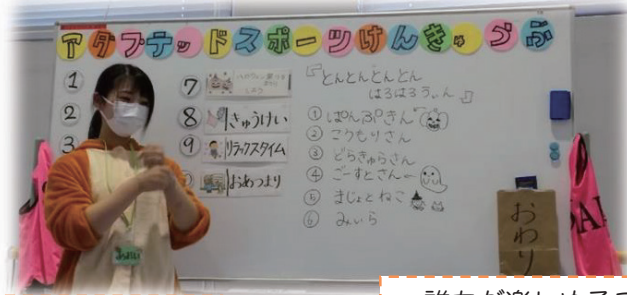


のびのびと楽しむ子ども
を見て私もとても楽しく嬉
しかったです♪学生さんも
みんな良い笑顔で過ごされ
ていてニコ体に参加できて
いる事有り難く思いました。
保護者感想

《令和3年度 ニコニコ体操教室》

おあつまり

さまざまな運動遊びを取り入れ
楽しく身体を動かしています



子どもたちとしっかり向き合うこと☆彡

誰もが楽しめることが目標



作って遊ぼう

ボールを使ったさまざまな運動

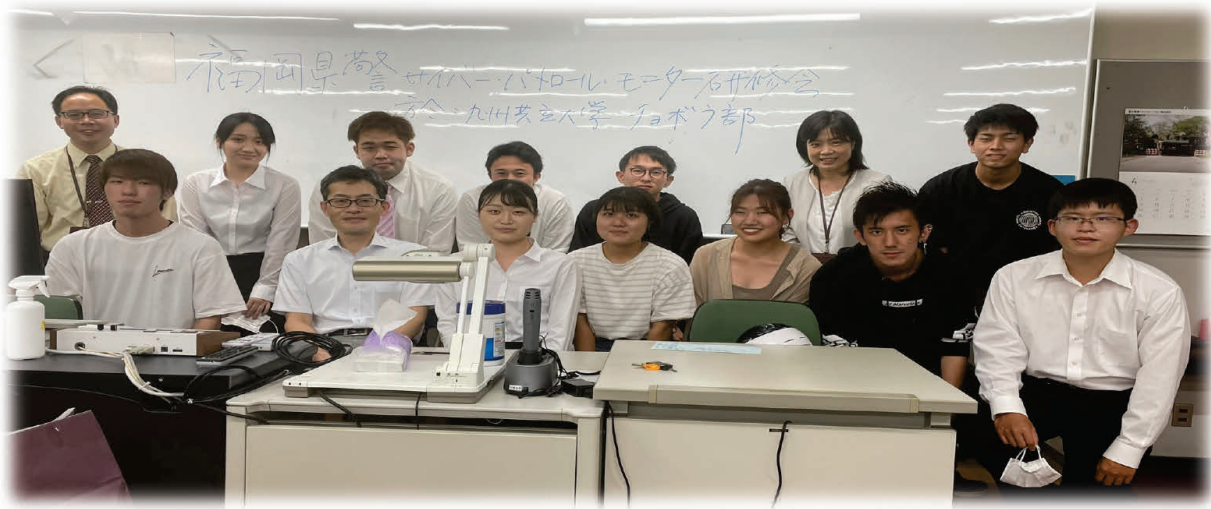


楽しい！出来た！を大切に☆彡



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	福岡県警察サイバーパトロールモニター研修会	
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部長)、尾上 百合加(ちょボラ部副部长)
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》福岡県警察本部
	責 任 者	《職・氏名》サイバー犯罪対策課 高度情報技術対処センター 企画係 大山氏
事業実施日・回数	令和3年7月9日 《計1回》	
実施場所	九州共立大学	
事業対象者 参加人数	九州共立大学経済学部学生 参加者人数：25名	
経 費	な し	
事業目的・内容及び実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>福岡県警察では、安全で安心して利用できるサイバー空間を実現するため、学生防犯ボランティアを「サイバーパトロールモニター」に委嘱し、官民一体となってインターネット上の違法情報・有害情報の流通を防止する活動に取り組んでいる。普段の生活や勉強などでインターネットを利用する機会を利用した無理のない活動である。</p> <p>2. 実績</p> <p>3. 効果</p> <p>フィッシングとは実在する会社などを装ったメールやSMS（ショートメッセージ）でターゲットを本物そっくりの偽サイトへ誘導し、IDやパスワードなどを入力させて個人情報を盗み取る手口であることがわかった。フィッシング等の被害を防ぐために、日頃から以下の心がけと対策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審なメールやSMSは開かない ・メールやSMSに記載されたリンクを安易にクリックしない ・内容に覚えがなければ電話は、店頭、公式サイトで直接確認する ・ウイルス対策ソフトを最新の状態に保つ、OSソフトウェアの更新を徹底する ・フィッシング被害に遭った場合、金融機関へ連絡するとともに警察へ相談する。 <p>また、金融機関がインターネットバンキングへのログインを誘導するSMSを送信することがないことも分かった。</p>	
学生の声	<p>ネット上の違法情報は独特な隠語が使われているため、サイバーパトロールでは、隠語で検索することが有効だと知った。また、パトロールを行う上では、コンピューターウイルス感染の可能性があることから安全が確かめられる範囲内で行うことが必要であることが分かった。フィッシングや偽のメッセージを見分けることが難しいことも理解したので、個人での利用の際でも気を付けて利用したい。サイバーパトロールの知識がなかったが、詳しく学べてよかった。実際にツイッターを使って隠語を検索してみると、たくさん怪しいツイートを見つけたので、驚いた。フィッシングについても始めて学んだ言葉だ。本物のようなサイトが偽物だったりしたため、簡単に騙される人が多い。詐欺がものすごく進化していることを知ったので安易にURLをクリックしない、よくわからないWiFiにつながらないように心がける。</p>	
今後の改善内容及び展開	<p>今後もこのような研修会を実施し、研修会で学んだ知識を使って、違法サイトが否か見分ける能力を習得したい。違法サイト見つけたら、IHC（インターネット・ホットライン・センター）に通報を！</p>	



修会後の集合写真(前列左から2人目は県警本部大山様)



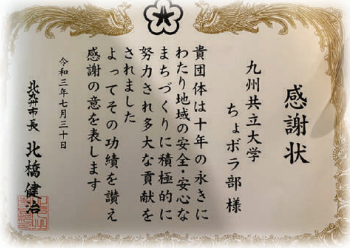

研修会の様子





九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	夏・冬休みの食料支援事業 「夏休み・冬休み お腹いっぱい大作戦」	
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部長)、尾上 百合加(ちょボラ部副部長)
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
	責 任 者	《職・氏名》理事長 原田 昌樹氏
事業実施日・回数	令和3年7月16日・12月5日 《計2回》	
実施場所	北九州市八幡東区中央2-14-17	
事業対象者 参加人数	九州共立大学経済学部学生 参加者人数：12名	
経 費	なし	
事業目的・内容及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン（八幡東区）が、支援が必要な北九州市内の経済的に厳しい子育て世帯を対象に、支援要請を待つだけでなく、こちらから積極的につながっていく「アウトリーチ」施策の一環として、給食のない長期休暇に広く食料支援を展開し、包括的支援につなげることを目指している。</p> <p>2. 実績</p> <p>本学の学生が参加した箱詰め作業は7月16日、12月5日に実施。地元企業やボランティアと共に約1000箱の食品詰め作業に汗を流した。</p>  <p>3. 効果</p> <p>活動をきっかけに初めてフードバンク事業について知ったという学生がいるなど、教育的な側面としての効果があった。社会課題に対して多くの方がそれぞれの立場で協力する姿を間近で見ることができ大変意義深い活動となった。</p>	
学生の声	作業は重くて大変だったが、受け取った子どもたちの笑顔を思うと楽しかった。来年度もぜひ参加し、地域の子育て支援に少しでも貢献できできればと思っている。	
今後の改善内容及び展開	今年度はコロナ禍の影響もあり、ちょボラ部からの参加希望者が多かったが、倉庫の作業スペースの関係で参加できる人数が限定されたため、参加できなかった部員もいた。来年度は、北九州ライフアゲインとより広範な協力関係を築き、もっと多くの有志者とともに北九州地域の「心の温かさ」のさらなる向上に貢献したい。	


九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	北九州市「暴力通報・安全安心まちづくり」市民大会	
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部長)、尾上 百合加(ちょボラ部副部長)
	所 属	経済学部
連 携 機 関	機 関 名	《機 関 名》北九州市、福岡県警察本部
	責 任 者	《職・氏名》北九州市 市民文化スポーツ局 安全・安心推進課長 南 秀幸
事業実施日・回数	令和3年7月30日 《計1回》	
実施場所	北九州芸術劇場	
事業対象者 参加人数	北九州市市民文化スポーツ局安心・安全推進課／九州共立大学経済学部学生 参加人数：6名	
経 費	なし	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>北九州市では、毎年暴力追放・安全・安心まちづくり大会を開催し、地域で様々な安全・安心に関する活動を自主的に取り組む団体の表彰を行っている。この度、本学ちょボラ部10年表彰団体に選ばれたため、甘が部員6名を引率し、大会に参加した。</p> <p>2. 実績</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>感謝状 九州共立大学 ちょボラ部様 貴団体は十年の永きにわたり地域の安全・安心なまちづくりに積極的に努力され多大な貢献をされました よってその功績を讃え感謝の意を表します 令和三年七月三十日 北九州市長 北福健治</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">ちょボラ部の大会参加者</p> <p>ちょボラ部長：甘長青 主将：青木優奈 副主将：濱本麻莉 サイバーパトロールモニター隊長：池田真吾 同副隊長：米澤和希 同・野間大暉</p> </div> <p>3. 効果</p> <p>いま一度、安全・安心なまちづくりの大切さを再認識することができ、改めてちょボラ部の日々の活動を通じて、北九州市の街づくりへの貢献の決意を新たにしました。</p>	
学生の声	私たちが当たり前だと思ってやってきたことが評価されて大きな励みになった。これからも大学生の立場で可能なボランティア活動を通して社会貢献をしたい。大学を卒業して社会人になっても社会的弱者を助けて、世の中を明るくしたい。	
今後の改善内容 及び展開	コロナ禍の影響もあって、この2年間、活動の幅が制限されてきたが、時期をみはからって、徐々に再開したい。また、災害救援や教育福祉関係のボランティア活動にも取り組み、様々なボランティア出動要請に対応できる柔軟な体制を早期に構築する。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		令和3年度
事業名		大学生応援企画【コロナ禍でアルバイト収入減少の学生への食料品無料配布】
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部部长)、尾上百合加(同副部长)
	所 属	経済学部
連携機関	機 関 名	《機 関 名》認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
	責 任 者	《職・氏名》理事長 原田昌樹氏
事業実施日・回数		令和3年9月24日 昼休み(12:15~13:05) 《計1回》
実施場所		深耕館2階 S210
事業対象者 参加人数		九州共立大学経済学部学生 10名 参加者人数:100名(スタッフ、被支援者)
経 費		なし
事業目的・内容及び 実績及び効果		<p>1. 事業目的・内容等</p> <p>認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲインとちょボラ部の協働事業として新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入が減少している一人暮らしの学生を対象に「大学生応援企画 学内で食料品の無料配布」を実施した。</p> <p>2. 実績</p> <p>学内のポスター掲示やSNSで告知した結果、経済・スポーツ両学部の学生から70名を超える応募があり、当日は約100名の学生に配布することができた。</p>
		 
		<p>3. 効果</p> <p>今回の活動により大学生に食料を配布するだけでなく、フードロスや困窮者支援といったフードバンク事業についての認知度を高めることができた。</p>
学生の声		コロナでバイトが減ったが、食べ物もらえて嬉しい(食料品を受け取った大学生) 将来余裕があれば自分も支援する側に回りたい(食料品を受け取った外国人留学生)
今後の改善内容及び展開		今後もフードバンク北九州と連携して、大学内での食料配付を定着させていく事ができればと考えている。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	令和3年度	
事業名	北九州市八幡西区学園大通り 折尾イルミネーション事業	
九州共立大学	担 当 者	甘 長青(ちょボラ部部长)、尾上百合加(同副部长)
	所 属	経済学部
連携機	機 関 名	《機 関 名》協同組合折尾商連
	責 任 者	《職・氏名》折尾商連 事務局長 桑原正樹氏
事業実施日・回数	令和3年11月14日・11月20日 《計2回》	
実施場所	学園大通り	
事業対象者 参加人数	九州共立大学経済学部学生 参加者人数：11名(ちょボラ部長・引率者甘を含む)	
経 費	なし	
事業目的・内容等及び 実績及び効果	<p>1. 事業目的・内容等 折尾商連や自治区会、周辺大学からなる「学園大通り活性化委員会」が、夜間のにぎわいと明るい安全なまちをテーマに実施しているライトアップイベントである。</p> <p>2. 実績</p> <p style="text-align: center;">イルミネーション飾り付けの様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>3. 効果 部員(学生)と大学が立地する折尾地域の住民との相互理解の増進につながった。</p>	
学生の声	イルミネーションの飾り付けは初めてだが、点灯すると、学園大通り全体を照らすほど煌びやかで、思わず感動した。来年もできれば、こういうボランティアをしたい。高いところで作業するのは最初は怖かったが、徐々に慣れることができ、作業のスピードもアップし、達成感を覚えた。おまけに、高所恐怖所まで克服できた(笑)。	
今後の改善内容 及び展開	コロナ禍の影響もあって、この2年間、活動の幅が制限されてきたが、時期をみはかかって、徐々に再開したい。	

2021年度資格取得支援プログラム(公務員試験対策講座教養コース)受講者数集計表

講座期間	合計	九州共立大学					九州女子大学					九州女子短期大学		
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	合計
5/31～2022/03/30	33			15	1	16			15		15	2		2

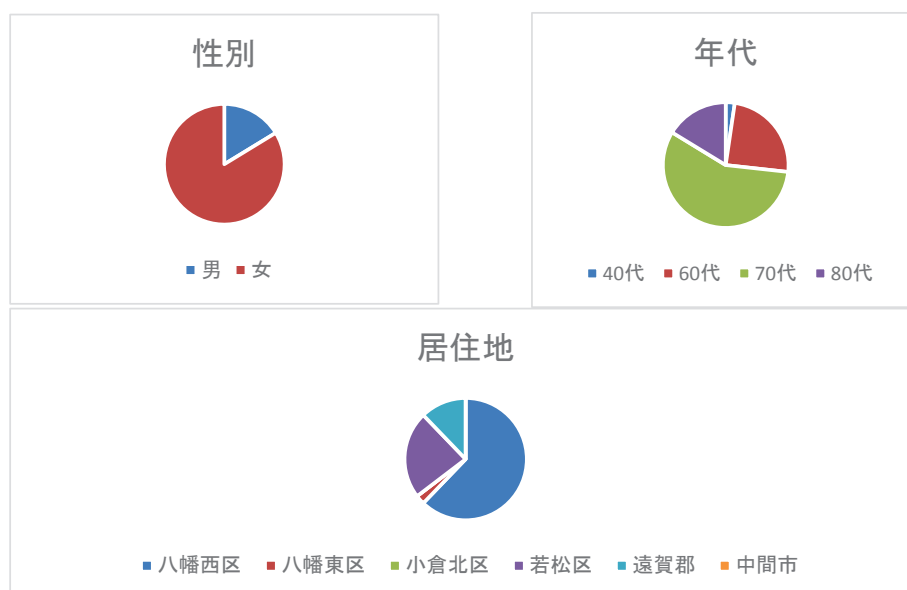
2021年度【前期・後期】公開講座実施報告

2021年度に地域連携推進センターで開催された講座は、前期4講座、後期4講座の合計8講座でした。
 なお、北九州市民カレッジ講座は、前期1講座、後期1講座の2講座は中止になりました。
 講座の延べ人数は859名、受講生数は86名でした。

【公開講座】

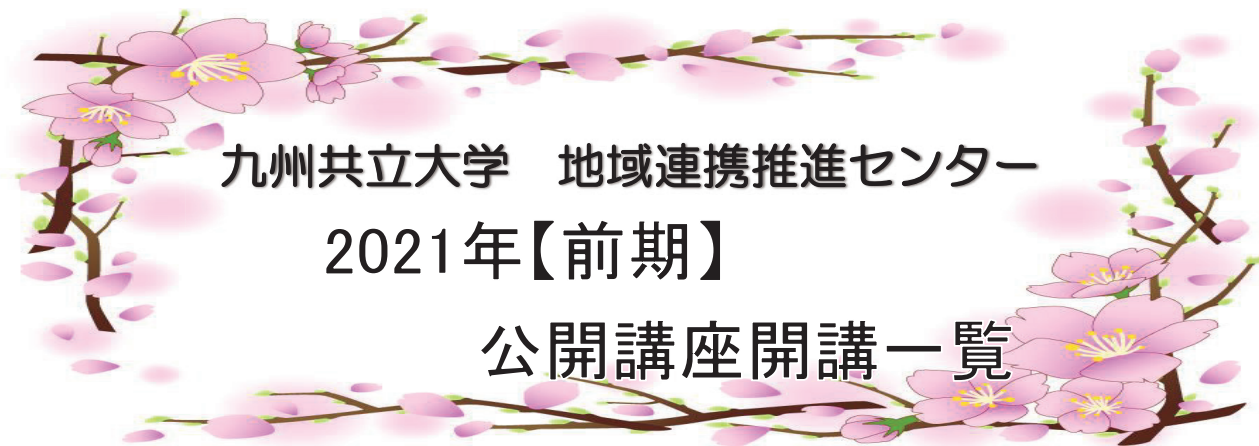
コース	No	講座名	実施期間・回数	受講生数			担当講師
				男	女	合計	
語学	1	美しい韓国語(前期)	5/11～7/27 火曜日 10:00～11:30 12回	2	6	8	朴 淑子
		美しい韓国語(後期)	10/5～2022/1/25 火曜日 10:00～11:30 12回	2	6	8	
芸術	2	歌う喜び「世界の名曲」(前期)	5/12～7/28 水曜日 13:30～15:00 6回	1	8	9	八代 真知子
		歌う喜び「世界の名曲」(後期)	10/6～2022/1/26 水曜日 13:30～15:00 8回	2	9	11	
	3	書道技法講座(前期)	5/11～7/23 金曜日 13:05～14:35 12回	1	16	17	九州女子大学
		書道技法講座(後期)	10/8～2022/1/28 金曜日 13:05～14:35 12回	1	17	18	古木 誠彦
スポーツ	4	スポーツ吹矢(前期)	5/6～7/29 木曜日 10:00～11:30 7回	3	4	7	九州共立大学名誉教授 信田 よしの
		スポーツ吹矢(後期)	10/8～2022/1/28 金曜日 10:00～11:30 7回	2	6	8	
公開講座 計				14	72	86	

【受講生状況】



※アンケート※

- コロナ感染予防もしっかりされて、満足しています。
- コロナ禍、講座を開いていただいたスタッフの皆様、講師と一緒に受講した皆様に感謝いたします。
- とても楽しく活動することができてありがたいです。次回も参加したいです。
- 年を重ねても出来る講座は少なく貴重なので、続けられたらうれしいです。
- 毎回、未知の素晴らしい歌に出会える講座は喜びです。
- 講師が丁寧にわかりやすく説明をしてくださるので、良く理解できます。講座の継続を希望します。
- 大学の公開講座を知り、学ぶきっかけ・機会に巡り合えてとても良かったです。
- 「頭の体操」に非常に役立っています。何事にも興味を持って、これからも続けていきたいと思います。
- 毎週の講座を楽しみに、家で予習・復習をして頭を使っている事が老後の人生に役立っています。
- 内容度が深いので、受講して本当に良かったと思います。
- コロナ感染の配慮も十分にされていて、同世代・同趣味の方々と交流できた。
- 古典を楽しく学び、技法についても丁寧に指導いただけて、充実した講座でした。



九州共立大学 地域連携推進センター

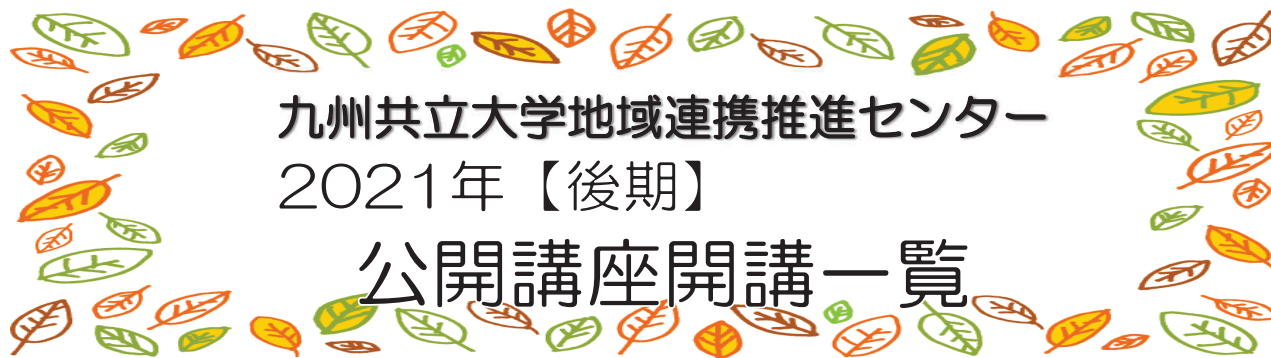
2021年【前期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語		歌う喜び「世界の名曲」	
韓国のドラマや旅行を楽しもう		日本や世界の歌を味わい、表現しよう	
期間：5月11日～8月3日（火曜日：全12回）		期間：5月12日～7月28日（水曜日：全6回）	
講師	朴 淑子	講師	八代 眞知子
日程	5月11日・25日	日程	5月12日・26日
	6月1日・8日・15日・22日・29日		6月9日・23日
	7月6日・13日・20日・27日		7月14日・28日
	8月3日		
時間	10時00分～11時30分	時間	13時30分～15時00分
受講料	12,000円	受講料	6,000円
定員	10名	定員	10名
スポーツ吹矢(木曜日)		書道技法講座	
集中力・免疫力を高めましょう		～名品を書いて味わおう～	
期間：5月6日～7月29日（木曜日：全7回）		期間：5月7日～7月30日（金曜日：全12回）	
講師	信田 よしの	講師	古木 誠彦
日程	5月6日・20日	日程	5月7日・14日・21日・28日
	6月3日・17日		6月4日・11日・18日・25日
	7月1日・15日・29日		7月2日・9日・16日・30日
時間	10時00分～11時30分	時間	13時05分～14時35分
受講料	7,000円 + 傷害保険料	受講料	12,000円
定員	10名	定員	20名

※お申し込みは先着順です。定員になり次第、締め切ります。

裏面に記入の上、郵送またはFAXでお申し込みください。



九州共立大学地域連携推進センター
2021年【後期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語		歌う喜び「世界の名曲」	
韓国のドラマや旅行を楽しもう		日本や世界の歌を味わい、表現しよう	
期間：10月5日～1月25日（火曜日：全12回）		期間：10月6日～1月26日（水曜日：全8回）	
講師	朴 淑子	講師	八代 眞知子
日程	10月5日・19日・26日	日程	10月6日・27日
	11月2日・9日・30日		11月10日・24日
	12月7日・14日・21日		12月8日・22日
	1月11日・18日・25日		1月12日・26日
時間	10時00分～11時30分	時間	13時30分～15時00分
受講料	12,000円	受講料	8,000円
定員	10名	定員	10名
スポーツ吹矢(金曜日)		書道技法講座	
集中力・免疫力を高めましょう		～名品の技法を味わおう～	
期間：10月8日～1月28日（金曜日：全7回）		期間：10月8日～1月28日（金曜日：全12回）	
講師	信田 よしの	講師	古木 誠彦
日程	10月8日	日程	10月8日・15日・22日
	11月12日・26日		11月5日・12日・26日
	12月10日・24日		12月10日・17日・24日
	1月14日・28日		1月14日・21日・28日
時間	10時00分～11時30分	時間	13時05分～14時35分
受講料	7,000円 + 傷害保険料	受講料	12,000円
定員	10名	定員	20名

※お申し込みは先着順です。定員になり次第、締め切ります。

裏面に記入の上、郵送またはFAXでお申し込みください。

令和4年1月25日
九州共立大学

本学は宗像市と「包括的地域連携に関する協定」を締結しました。

本学は、宗像市と人材育成及び学術文化の向上発展に資するため、「包括的地域連携に関する協定」を締結することとなり、令和4年1月25日(火)、宗像市役所において調印式を行いました。

調印式で奥田学長は、「本学がこれまで培ってきた教育や研究の蓄積を、宗像市様の活性化や人材育成、福祉の向上のために提供したいと思います。」と、協定締結にあたっての意気込みを述べました。

この協定締結を機に、豊かな自然と歴史・文化を持つ宗像市において、学生の皆さんが主体的に学習する様々なフィールドを提供して頂きたいと思います。

今後の取組みに期待してください。



写真左から

奥田学長

宗像市長 伊豆 美沙子様

第一生命保険株式会社と「包括連携協定」および「寄付講座の設置に関する覚書」を締結

令和4年3月16日、本学は、第一生命保険株式会社と「包括連携協定」および「寄付講座の設置に関する覚書」を締結するため、包括連携協定締結式を開催しました。

締結式で、奥田学長は、

令和4年度は、この協定で定める連携事項の1つである「教育学術研究に関すること」の取り組みとして、生命保険総論をテーマとした寄付講座を開設いただきます。

この協定締結を契機に、第一生命保険株式会社と本学が相互に連携し、第一生命保険株式会社の更なる発展や本学の教育の質向上を図るため、本学ができることに積極的に取り組む予定です。



左：第一生命保険株式会社 今村支配人
右：九州共立大学 奥田学長



左：第一生命保険株式会社 島村支社長
右：九州共立大学 西川経済学部長



九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

2021 年度 九州共立大学 地域連携推進センター 報告書
発行 令和 4 年 11 月

学校法人福原学園

九州共立大学 地域連携推進センター

〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8

TEL&FAX 093-693-3255 E-mail renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp